

広島ワークショップ

広島市安佐動物公園（2003 年 2 月 28-3 月 2 日）

■検証プログラム

「子どものための動物教育-とってみよう、くらべてみよう、あしがた」

⇒『新しい教育プログラム』p.75（2001 年度 日本動物園水族館協会 教育推進事業報告書）

⇒ http://www.jazga.or.jp/new_kyouiku_p/teian/sougou_02.html（日動水 web サイト内）

■日程

2003 年 2 月 28 日（金）

13:00	受付		管理事務所
13:30-14:00	オリエンテーション	目的の共有	ホール
14:00-14:30	セッション 1	アイスブレイク	ホール
14:30-17:00	セッション 2	体験学習法を体験する	園内
17:00-17:30	宿舎へ移動		バス
17:30-18:30	夕食		宿舎
18:30-20:30	セッション 3	体験学習法の理解を深める	研修室
20:30-21:00	子ども WS についての説明		研修室
21:00-21:30	入浴		宿舎
21:30-	情報交換会		宿舎

2003 年 3 月 1 日（土）

7:30-8:30	朝食		宿舎
8:30-9:30	動物園へ移動		バス
9:30-10:00	オリエンテーション	ウォーミングアップ	ホール
10:00-11:00	セッション 4	指導の視点	ホール
11:00-12:00	子ども WS 準備と下見、役割分担		ピーちくパーク
12:00-13:30	昼食		ホール
13:30-14:00	子ども受付		ホール
14:00-15:15	セッション 5「子どもの学びを支援する：実践 1」		ホール
		アイスブレイク、グループ分け	
15:15-16:30	動物に実際に触れる		ピーちくパーク
16:30-17:30	宿舎へ移動		バス
17:30-18:30	夕食		宿舎
18:30-19:30	入浴		宿舎

19:30-21:00 セッション6 研修室
「子どもの学びを支援する：実践2」
班毎に足型取りの計画書をまとめる
21:00- 1日のふりかえり 研修室
翌日のインフォメーション
21:30- 子ども就寝

2003年3月2日(日)

7:30-8:15 朝食 宿舎
8:15-9:00 移動 バス
9:00-11:30 セッション7
「子どもの学びを支援する：実践3」
グループ毎に足型を取る
ピーちくパーク
11:30-12:00 ふりかえり発表会 ホール
12:00-13:00 子ども解散・昼食 ホール
13:00-15:00 セッション8 ホール
ふりかえり
15:00 解散

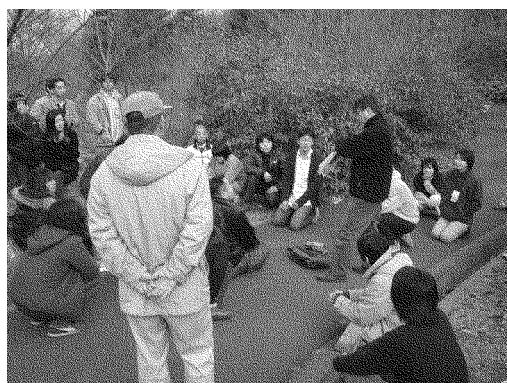
■概要

体験学習法と呼ばれるインタープリテーション手法を、参加者自身が体験しながら学び、また子どもたちに対して「足型取りプログラム」を実際に実践することで理解を深め、同時にこの新規のプログラムの普及を図るという「入れ子状」のWSであった。

参加者は34人(園館関係者25、学校教員2人、その他7人)であった。1日目午後は、実際に体験してみることや講義を通しながら、体験学習法について学んだ。2日目午前は子ども受け入れの準備を行い、午後からは一般の子ども達が参加し足型取りの下見などを行った。夜は宿舎で子どもたちと一緒に足型取りの予定を立てた。3日目午前中に足型取りを実践して、発表会を開催し、子どもたちが解散した後、午後はまとめ



アイスブレイクを体験



野外での体験学習法セミナー



体験学習法の理解を深める



2人で粘土工作をするアクティビティ



子どもたちに伝えたい思いを書き出す



子どもたちの受付



子どもたちとリーダーのアイスブレイク



まずは動物に触ってみよう

を行った。

■体験学習法

人間科学研究所の指導のもと、各種アイスブレイクやアクティビティ（「粘土」、「wish poem」）、ふりかえりなどの活動を体験して、体験学習法の手法を学んだ。

課題を与えられるだけで、あとは自分たちの自由な発想でその課題に応じていくという中に、実に多様な広がりや可能性のあることが実感できた。また、同じ課題を与えられても、人によって様々な切り口を見いだすこと、そのバリエーションの豊かさこそが面白いのだということを知ることができた。体験学習法を体験学習したという感想を持った参加者が多かった。

■子どもたちへの実践

公募（事前申込）により一般の子どもたち約 60 人（男女比 1:2）が参加。参加者は学んだアクティビティを子どもたちに実践し、足型取りというプログラムを経て、体験学習法への理解を深めた。活動は全て、リーダー2人と子どもたち5人というグループで行い、WS 参加者がリーダーになった。

リーダーたちは、「結果よりもプロセスが大事」という観点で子どもたちと接することができた。多くの参加者にとって、これは新しい視点だったようである。「手を出さないことの重要性を発見した」という意見も多く聞かれた。1 班に2人のリーダーがついたことで、お互いに相談しながら活動できたことが、効果的だったと思える。「足型取り」のプログラムに必要なハードとソフトの両方を知ることができた。

■足型取り

様々な道具を使って、飼育係の意見を聞きながら、子ども動物園「ぴーちくパーク」内の動物の

足型を取った。子どもたちが使うだろうと予想される道具は、考えつく限り、事前に用意しておいた。まず、子どもたちと一緒に「ピーちくパーク」の下見を行い、実際に動物に触れることで足型が取れるかどうかを調査した。その後、各班毎に話し合い、どんな道具を使って、各自がどんな役割で、どうやって足型を取るかという計画書を子ども主体で作成した。計画書は飼育係に見てもらい、アドバイスをもらった。そうやって作成した計画書は、「ピーちくパーク」村長のGOサインをもらってようやく完成となるという流れである。

翌日、計画書をもとに、足型取りを実践した。いろいろな道具を並べておき、何を使うかは子どもたちに選んでもらった。粘土を使ってポニーやウズラの足型を取る、墨や絵の具を使ってウサギやヤギ、ブタの足型を取る、紙粘土を使ってクジャクの足跡を型取るなど、様々な手法を見ることが出来た。ひとつの方法を試して失敗し、次々と新しい方法を考えては試すグループもあった。「ピーちくパーク」の職員は子どもたちの計画を聞き、成功しないだろうと予想できる方法であっても、まずはその方法に協力し、子どもたちが失敗を経て次の方法を考えつくことをサポートしていた。

最後にホールに集まって全員で発表会を行い「ふりかえり」とした。子どもたちは大勢の前で発表することに緊張しながらも、自分の作成した足型を誇らしげに見せる姿が印象的だった。

■ふりかえり

子どもたち解散後、WS参加者は全体のふりかえりを行った。

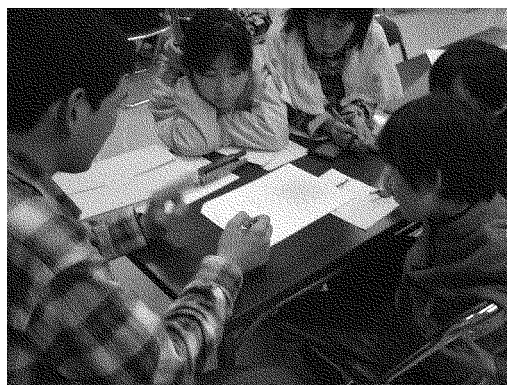
子どもたちを宿泊させたことで、プログラムの実践よりも子どもたちの生活指導や人間関係に関する印象が強くなってしまった。しかし、



子どもたちが中心になって話し合い



足型取りの計画書を作る



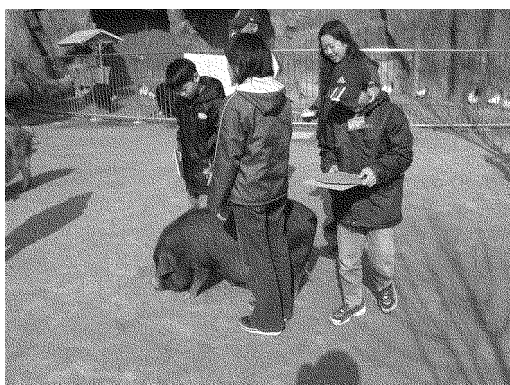
リーダーがアドバイス



子ども動物園村長のGOサインは出るか？



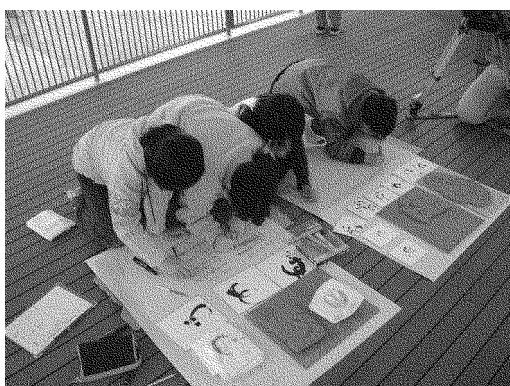
ポニーの足型取りにチャレンジ



ブタの足型は取れるか？



ウサギの足型をやさしく取る子どもたち



取った足型の記録をまとめる

体験学習として「子どもたちに自由に何かやらせるためのプログラム」とはどういうものかは理解できたと思う。

■まとめ～開発プログラム実践～

自分たちで計画を立て、それにのっとって足型取りを実践することで、子どもたちの参加意識や目的をはっきりさせる事ができた。子どもたち側のケアと、動物のケアを同時に行わねばならず、人手が必要なことも分かった。また、子どもたちが宿泊するという大がかりな内容だったせいか、「うちの園では無理。安佐動物公園だからできるプログラム」という声もあったが、「できる部分を取り入れて考えてみたい」という声も聞かれた。今回は集中的日程でプログラムを実施したため宿泊を伴ったが、学校での事前学習を交えたり、動物園に数日通うといった日程でも実施可能であろう。

■まとめ～教育事業推進～

まだまだなじみの薄い体験学習法を学ぶことで、学習プログラムを実践する上での手法的な整理ができ、活動の幅が広がったことだろう。答えをすぐに教えてしまうことの多かった園館の教育活動を反省し、「自分で考え発見する」ことの大切さを見出すことができた。また、それを子どもたちに実践することにより、理解を深め、自分の課題などを見つけることができただろう。「アイスブレイク」、「アクティビティ」、「ふりかえり」といった言葉を共有できたことで、今後、ともに考えていくこともできるだろう。

時間的にタイトなスケジュールで行ったため、自分の体験を十分にふりかえることができず、また、子どもたちとの関係作りに重点が移ってしまったことが残念だが、これから参加者各自が一連の手法を反芻し理解することで、各園館での学習

プログラム作りに、役立てていただくことを願う。

■記録

開催協力

広島市安佐動物公園

人間科学研究所

志賀 誠治、大滝 あや、内平 八重子

宿泊

広島市青少年野外活動センター

検討委員

大丸秀士（広島市安佐動物公園）

並木美砂子（千葉市動物公園）

加藤由子（動物作家）

赤見理恵（市民ZOOネットワーク

/東京大学産学官連携研究員）

記録撮影

赤見朋晃（ズー サポート ネット）

配布資料

スケジュール

ワークショップの背景

子どもプログラム補助資料

参加者名簿

子ども募集チラシ

子ども班分け名簿

安佐動物公園パンフレット

ぴーちくパークパンフレット

ぴーちくパーク平面図

子ども用プログラムのちらし

新聞記事

シンポジウムのチラシ

動物レクチャーのご案内

取材

NHK 広島

中国新聞

ほか、地元テレビ局



足型の発表会



子どもたちのふりかえりに



参加者もふりかえりを行う



最後に記念撮影